

---

---

# 山は山でもゴミの山！！

---

---

西 正子

今回の話は山行報告ではありません。明彦の父西貞義さん宅のお片づけ顛末記です。

すでに両親を見送られている皆さん。次は確実に「自分の番」です。気が付いた時には気力体力がなくなり、ゴミに囲まれ最期を迎え、子供にも面倒を残す。そんな悲劇を起こさないように・・・という気持ちで書いてみました。

## ●ことのはじまり

貞義さんは、数年前まで「元気なお年寄り」特集で、テレビ出演もした傑物ですが、98歳になった今年のお正月。とうとう施設に入所が決まりました。

そうして残された自宅が4LDKの一戸建て。この建物こそが、ゴミと言う名の魑魅魍魎が住み着く伏魔殿だったのです。

## ●ゴミはつづくよ、どこまでも・・・

処分場へのお百度参りがはじまりました。

燃やせるゴミ、ビニールやパッケージ、ビンと缶、食器と置物、家電製品、布や洋服。種類ごとにどんどん袋詰めしていきます。仏壇や神棚だって例外ではありません。ゴミ処理場で「さようなら」となりました。

なにしろ古い家屋は押し入れが多い。その上、4部屋のうち1部屋は納戸になっていたため、モノの量たるや半端ではありません。標高2mのゴミ山があちこちに出現し、一度など、土砂崩れが障子を突き破る事故も起きました。

「モノが多い原因」は同じものがいくつもあるからです。お鍋30ケ、花瓶40ケ、ハサミ50丁、筆記用具200本。食器なども旅館がひらけるくらいありました。

「捨てる」いう選択肢がなかった大正生まれの貞義さん。それどころか、ゴミ捨て場から書籍やレコードを拾ってきてはため込んでいたのです。

こうしたなかで良いこともありました。押し入れの奥からホワイトグースの高級布団が発掘されたのです。明彦は大喜び！その夜から快適な眠りが保証されました。

しかし正子はずっと欲深です。「金品を」と、家中を漁りました。しかし結果は残念！ブタの貯金箱にあった小銭数枚を手にしただけでした。

## ●家具も壊す

ゴミ捨ての次は、家具捨てです。

業者に聞くと、家具のお引取りは1つ10000円もかかるとのこと。ああ！もったいない！とにかく車に乗るサイズに分解です。

タンス、引き出し、本箱、食器棚。加えて手先の器用な貞義さん作の家具も合わせて計30ケほどありました。これをノコギリとハンマーで次々潰していきます。1ケにつき約2時間、1週間の作業となりました。

家具壊しの難所、キレット越えは「ベッドマットレス」でした。

YouTubeを参考に、最初に側面に一周、カッターを入れます。表面の布地、中のクッション材をじゃんじゃんはがし、どんどんゴミ袋に詰め込みます。そして金属製のフレームとスプリングが丸裸になったところで、最後は専用工具で細かく刻んでいきました。

すごいゴミと埃でのどが苦しい・・・目が痛い・・・将来、塵肺で私たちが死んだら、このマットレスに殺されたらと、皆さん思ってください。

掃除機はたくさんのゴミを吸い込んだあげくご臨終を迎えました。おかしなものを食べ過ぎて食中毒を起こしたのかもしれませんが。

## ●売れたものもありました

と言っても、押し入れからピカソの絵が出てきたわけではありません。

ただ細かいものが、ちょこちょこと現金化できたのです。

A店(お買取り店)

切手 テレカ 古銭・外国硬貨 洋酒 レコード

B店(お買取り店)

腕時計 カメラ

C店(B店の出張買取部門)

置時計 時計修理用専門機械

D店(お買取り店)

掛け時計

E店(金属リサイクル処理会社)

ボール盤などの工作機械 スチール物置

Fメルカリ

鉄道時計 北欧・マリメッコやムーミンのマグカップ 四国八十八カ所御朱印帳

※現役時代、貞義さんは時計店をやっていたので家に専門機械やささまざまな時計が残されていたのです。

お買取り屋さんなどはじめてです。新聞チラシを見て当たってみました。幸いどの店舗もみな親切でした。

そして店によって買取品目や価格にかなりの差があることは発見でした。また、こちらが価値を期待していても、最終的には世間の人気で買取価格が決まることも知りました。食器ひとつとっても、現代の北欧ブームの前では、たとえ高級だとしても、ヨーロッパの伝統陶磁器は後れをとってしまうのです。

くれぐれも欲をかいてはいけません。

Lレコードは1枚10円、鉄くずは1kg50円が相場です。「これこそは！」と期待した江戸古銭ですら、今は流通がだぶつき気味で、外国硬貨同様2g1円にしかありません。売上金は、レストランのディナーどころか、スーパーで惣菜を買うのが関の山です。

## ●現代のお片付けはタイヘンだ！

試しに昔のお片づけと比較してみましょう。

昭和が舞台、人気アニメの「サザエさん」。

仮に波平さんが15年後、当時の平均寿命69

歳で亡くなったとします。

間取りから見ると、波平さんの所持品は押し入れとタンスを合わせてもせいぜい2、3カ所。それに趣味の盆栽、囲碁くらいでしょう。

対するお片付け隊は、磯野家6名とノリスケさん一家も来るでしょうから計9名です。フネさんの指揮のもと、みんなでわっとかかれば、朝から始めたとしても、夕方には余裕で終了でしょう。そしてその晩は、出前のお寿司などをつまみながら、亡き父を偲ぶ姿が容易に想像できます。

ところが、現代はまったく違います。

- 1 長寿社会。片付ける子供も高齢化
- 2 少子化なので片付け人員が少ない
- 3 モノは多く、長期戦が予想される

ですから、残された人は重い十字架を背負ってしまうのです。せめて元気なうちに、ぼちぼち整理するのが、後の人たちへの思いやりともいえるでしょう。

## ●お片付けの目的は？

お片付けは、人生で何が大切かを見極める行為です。こどもが小さかった頃のアルバムや昔の登攀具などは、使わないからと言って捨てるわけにはいきません。

どうか、どこに何を入れたか覚えておいてください。モノは忘れ去られた時から「ゴミ」というやっかいものに変身し、押し入れの片隅で深い眠りについてしまうのです。

私自身は物質的で強欲ですが、この片付け体験の後は、モノを増やす贅沢よりも、面白い人たちとの付き合いが、現世における最高のよろこびだと感じるようになりました。例会や山行など、この豊かさを今後も享受していきたいのです。

緑が映える5月末。とうとう5ヶ月間にわたる大事業が終了しました。陽射しがまぶしい広い部屋。輝いています。そ、し、て、

あの人なら、きっとほめてくれるはずです。

《ホコりに耐えて良く頑張った。感動した！》

by 小泉純一郎